

五 展開例

- 一 対象 小学校 中学年
- 二 主題名 多くの生命に支えられて

三 ねらい

生命の尊さを感じ取り、生命あるものを大切にしようとする心情を育てる。

- (3) (1)

四 発達の段階と資料の特質

小学校中学年の児童は、生命が大切なことはよく知っている。

しかし、誕生の喜びや死の重さを体感する場面を直接経験するということは少なく、本当の意味で理解し実感しているとは言えない。この時期の児童に、生命の誕生のすばらしさや死の重さを感じさせるとともに、生命のつながりに気付かせることで、生命の尊さや生命あるものすべてを大切にしようとする心情を育てたい。

本資料は、畜産業を営む両親から一頭の子豚を任され、大切に育てていた主人公が、口蹄疫の発生やそれに伴う殺処分を通して、命の尊さや生命のつながり（関連性・連続性）について考えるという内容である。主人公の心情に共感させるとともに、「二十九万頭の命がたくさん牛や豚の命を救った」という父親の言葉に触れた主人公の心情を通して、命の尊さや多くの命に支えられて生きていくことを改めて考えることができる資料である。

- 1 生き物や身近な人が誕生したときの気持ちについて発表する。
- 2 資料「ありがとうぶつた」を読んで、話し合う。

(1) 主人公は、どんな気持ちでぶつたをぎゅっとだきしめたのでしょうか。

(2) なみだがあふれて止まらなかったのは、どんな気持ちからでしょうか。

(3) どんな思いをこめて、ひまわりのたねをまいたのでしょうか。

(4) ぶつたへの手紙にどんなことを書いたでしょう。

- 3 生命を尊いと感じた経験について話し合う。

4 生命の尊さや多くの生命に支えられて生きていると感じた経験など教師の説話を聞く。

六 指導上の留意点

展開例2では、子豚の誕生の喜びや口蹄疫被害で子豚を失った気持ちを主人公に共感させて感じ取らせる。また、(3)では、父親の言葉を通して、生命のつながりについても考えさせたい。

展開例3では、生命の誕生や死など、生命を尊いと感じた経験を話し合う。そのときの思いや気持ちについても話し合うことで、生命あるものへの感謝の心や生命を大切にすることを育てたい。

七 参考資料等

口蹄疫の被害にあった畜産農家への取材内容を参考にしてストーリーを構成した。